

令和4年12月21日
四国電力株式会社

伊方発電所周辺地域のお客さまへの訪問対話活動の実施結果について

今年度の訪問対話活動は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、昨年度、一昨年度と同じく、伊方発電所の現状などについてご説明するリーフレットを伊方発電所から20km圏内の各世帯にお配りし、専用はがきや電子メール等で皆さまからお寄せいただいたご意見・ご質問に個別に回答するなど、丁寧に対応させていただきました。

また、これにあわせて伊方発電所の状況を詳しくご説明する動画を制作し、地域のケーブルテレビ局で放送したほか、当社ホームページでも公開しています。

概要は以下のとおりです。

1. 訪問対話活動の実施結果

○期間 令和4年9月9日（金）～10月13日（木）

○配布戸数 26,668戸

（内訳）

地域		期間	戸数
伊方町	全域	9/9～10/4	4,158戸
八幡浜市	全域	10/1～10/13	15,363戸
大洲市	旧大洲市・旧長浜町の一部		2,521戸
西予市	旧三瓶町全域、旧宇和町・旧明浜町の一部		4,626戸
戸数の合計			26,668戸

○リーフレットの内容

- ・伊方発電所における安全文化醸成や技術力の維持・向上への取り組み
- ・使用済燃料乾式貯蔵施設設置工事や伊方発電所1,2号機の廃止措置作業の状況等

○皆さまからお寄せいただいたご意見・ご質問の件数 81件

＜ご意見の例＞

（「安全文化醸成や技術力の維持・向上への取り組み」関連）

- ・日々の積み重ねが四電の信頼につながることを意識して、より良い職場環境の維持、向上をお願いする。
- ・信頼を損なうような報告・連絡の手抜きや保全上のケアレスミスを起こさぬよう取り組んでほしい。
- ・若い人への技術、経験の伝承はこれからも課題となると思うので、安全のためにもしっかりと伝えてほしい。
- ・運転訓練はしっかりと。継続は力なり。

（使用済燃料乾式貯蔵施設関連）

- ・発電所に乾式貯蔵施設を建設中とのことで安心している。
- ・再処理工場を早く完成させ、使用済燃料を伊方から運び出してほしい。
- ・乾式貯蔵施設を設置したとしても、将来、新たな設置が必要ではないか。使用済燃料の再利用ができない限り解決にはならない。

（その他）

- ・ロシアのウクライナ侵攻から半年、エネルギーを他国に頼らざるを得ない今、日本にとって原子力発電の稼働はとても重要。
- ・事故があったらすべて失う怖さを福島は教えてくれました。もっと自然を利用したものにしてくれたらと思う。
- ・リーフレットはとてもわかりやすかった。今後もリーフレットの配布や、地域住民への情報提供をしてほしい。

2. 動画の放送状況等

令和2年1月に伊方発電所で連続して発生したトラブル以降、地域の皆さまへの動画による情報発信にも注力しています。

今年度も、伊方発電所における安全文化醸成や技術力の維持・向上への取り組みを詳しくご説明する動画「伊方発電所で働く人たち ～安全への思いをひとつに～」を新たに制作し、9月9日から10月24日までの間、地域のケーブルテレビ3局で放送しました。

また、動画は当社ホームページでも公開しています。

(参考) これまでの動画制作とケーブルテレビ3局での放送状況

令和2年8月下旬～9月上旬、10月

「皆さまにご信頼いただける伊方発電所を目指して」

〔 連続トラブルの再発防止と、発電所における新型コロナウイルス感染防止に向けた取り組み状況をご説明 〕

令和2年10～12月

「乾式貯蔵施設ってどんなもの？ 伊方発電所での計画について」

〔 使用済燃料乾式貯蔵施設の概要とその必要性・安全性についてご説明 〕

令和3年10～12月

「『より良い』伊方発電所を目指して」

〔 連続トラブルおよび過去の保安規定違反の再発防止に向けた取り組み状況をご説明 〕

当社では、今回の活動を通じてお伺いした地域の皆さまのお声を経営層から発電所員に至るまで真摯に受け止め、安全を最優先にする文化を一層確かなものとする取り組みに不断の努力を積み重ねるとともに、すべての関係者が責任感と使命感をもって業務を遂行してまいります。

以 上